

繭から糸口を探り製糸する際、通常の繭だと問題無いのですが、玉繭の場合常に2本の糸が出て頻繁に絡まるため、動力を使用する機械製糸は極めて困難です。そのため牛首紬は非常に手間がかかりますが、のべ引きと呼ばれる手作業による糸づくりが成されています。

機械製糸の場合、糸を引く力が強いので糸本来の持つウェーブ状の縮れが伸びきってしまうのに対し、手作業による糸づくりは程よく縮れが残り、それが生地丈夫さ、張り具合、伸縮性に富み、身体に馴染む抜群の着心地が生まれるのです。生地自体の目方は普通にあるのですが、実際に羽織ってみると装着していないと錯覚するくらい、驚くほどの軽さを感じるのも、牛首紬の手作業による糸づくりが深く関係しています。

ところで大島紬や結城紬といえ、言うまでもなく価値ある紬のブランドであり、ほとんどの方がそれを周知しています。複雑な模様を緋による織りで表現する技法は非常に緻密で素晴らしいものがあります。

一方で牛首紬は一部に先染めの縞や緋も存在しますが、そのほとんどが白生地で織った後に染めを施す後染めの紬です。それにより模様のバリエーションを多種多様に表現することが可能であり、着装用途の範囲も広いものがあります。

織りの複雑さが特徴である大島紬、結城紬に対して、牛首紬はまさに糸づくりの技術が素晴らしく、機能性に富む美しさを持った着物であると言えます。